

# スパジウムジャポン

Spadium Japon  
(東京都東久留米市)



東久留米には巨大なイオンモールがある。古い地図で調べてみたら、そこはかつて大手都市銀行のグラウンドであった。今回紹介するのは、東久留米市の巨大温泉施設であるスパジウムジャポン、通称「スパジャポ」だ。スパジャポは、かつては団地であった場所にある。イオンモールもスパジャポも、元は昭和を象徴するような土地の利用形態だった。それらは、半社会主義的なものでもあったわけだ。そのような昭和の残骸が捨て去られ、金を集めることができる新しい施設が建てられていく。それが平成という時代だったのかもしれない。

さて、そのスパジャポ。「関東最大級」というふれこみのスーパー温泉施設である。取材班が訪れたのは10連休となったゴールデンウィークのほぼ中日。さすがにすさまじい混雑ぶりであった。ゴールデンウィークに遠出しない人たちが近場で遊べる場所と言えば、たしかにイオンモールや温泉しかないのかもしれない。

まずは入場。かろうじて駐車場には入れたものの、入浴料を支払う自動販売機の前には約100人の人だかり。15分ほど待たされてやっと入場できた。入場には、まず下駄箱の鍵を使って、自動販売機で入浴料を支払う。鍵を切符代わりにして自動改札を通過。以降、この鍵が精算のための財布となる。例えば、レストランで食事をする時は、この鍵を使う。そして、施設から退場する際に、精算機で金を払い、

鍵を使って自動改札を通るという仕掛けだ。従って、下駄箱の鍵をなくすのは致命傷となる。ちなみに下駄箱の数は 1,200 個以上。下駄箱は、中に靴を載せるとセンサーが作動する仕掛けになっており、現在の入場者数を自動的にカウントできるようになっているようだった。下駄箱は小さいので、ハイカットの靴を履いていけないようにしたい。

脱衣室は、入場した階の 1 層上となる。脱衣室の中にはロッカーが 534 個、ドライヤーが 11 個、洗面台が合計 3 個ある。アメニティーとしては、乳液、ローション、麵棒、ティッシュペーパーが揃っている。女湯はさらに充実していたようだ。ロッカーの鍵は下駄箱の鍵とは異なる。下駄箱の鍵はロッカーに収納しても良いが、身に着けていた方が安全であろう。後者の場合は、入浴中は下駄箱の鍵とロッカーの鍵の 2 個を身につけていなければならない。

何もかもが巨大な施設であるが、浴室もスケールがでかい。中に入るとかけ湯、かけ水があり、サウナ、水風呂がある。サウナは蒸気サウナと塩サウナ。蒸気サウナは室内温度 95℃、4 段式で定員は 24 人程度。なぜか蒸気は十分に出ておらず、ドライサウナのようであった。

一方の塩サウナは室内温度 65℃で定員 10 人程度。山盛りの塩が中央に置かれている。塩サウナの効能はいろいろあるようだが、信じられないのは皮下脂肪を除去できるというふれこみだ。そんなことありえるわけがないと思いながら、サウナ室内の説明を読むとポイントがわかった。皮下脂肪除去の原理となっているのは「浸透圧」である。説明によれば、人間は皮膚と通して様々な物質を外部とやり取りしているとのことだ。皮膚を通して排出される汗や皮脂、老廃物がそれだ。これらの排出量は浸透圧によって制御されている。すなわち、塩を使うことでこの浸透圧を正常値から少しずらし、脂肪を外部へ排出しやすくすることができるということのようである。

水風呂は 15℃と 18℃の 2 種類がある。定員はそれぞれ 5 人程度。一方は炭酸入りとなっている。水風呂の温度の選択ができるとは、何という贅沢な話だ。

浴槽は、ボディーマッサージ風呂が 1 人用×2 個、電気風呂 1 人用×1 個、寝風呂 5 人分、薬湯、炭酸風呂がある。ボディーマッサージは、1 流式と 5 流式がそれぞれあり、違った水流を楽しめる。電気風呂にも水流があり、電気の力と水流との相乗効果がありそうだ。電流は定期的に振動のパターンが変化するので、それぞれの振動に合致した場所を治癒するとよい。炭酸風呂は 37℃と長湯に適しており、他は 40℃前後と適温だ。薬湯は日替わりで、取材日はスパークリングワイン。しかし、なぜか黄緑色だった。これではバスクリンと大して変わらないような気がする。

洗い場は 35 か所。シャンプー、ボディークリーム、コンディショナーは完備している。たくさん洗い場があるが、同時使用率が高いと思われる取材日においても、カランの水圧は申し分ない。他にシャワーブースが 2 か所ある。

露天風呂には、熱湯、壺湯 6 個、シルク風呂、岩風呂、寝風呂 4 人分、腰風呂がある。シルク風呂と岩風呂にはテレビもある。観れば、令和最初の日のニュースを繰り返し放送している。熱湯は 43℃だから、決して熱くはない。やや熱めといった程度である。大江戸銭湯の熱い湯に慣れている人には、物足りないに違いない。露天風呂には、ほてった体を冷やす場所も豊富に設けられている。

脱衣室も浴室も大変な混雑であるが、中高生の集団が大声で騒いでいるのは少々閉口した。やはり、ここは公共の場所。楽しいのはわかるが、マナーは守ってほしい。このため、スパジャポへ行って癒されたいと思うなら、休日は避けた方が良いであろう。

数年後には、きっとこのスパジャポをしのぐ温泉が建設されるのではないかと予想する。日本人の風呂好きは尋常ではない。

DATA

名称	スパジアムジャポン
所在地	東京都東久留米市上の原 2-7-7
電話	042-473-2828
営業時間	平日 9:00~25:00、土日祝日は 8:00 から営業、金土祝前日は 26:00 まで営業
定休日	年中無休
入浴料	大人（中学生以上）：入浴平日 750 円、土日祝日 850 円、岩盤浴 650 円 小学生：入浴 350 円、岩盤浴 250 円 幼児（3 歳以上）：入浴 100 円 3 歳未満無料
サウナ	あり
サウナ内のテレビ	あり
取材日	2019 年 5 月 1 日（水）
取材	銭湯愛好会東京支部